

たり、愛はおやの子を愛することくに、ねんごろに親を云、友はともだちのたがひに切磋琢磨することく、道ををしへあやまちをいましめ、至徳をあきらかにする様に善をせむるを云、他人のとしわかきくらゐいやしきにまじはるも、おなじことほりなり、他人にてもいとけなきに惠をほどこし、賤になさけふかくするは、道理の當然なり、まして弟はおやの身をわけて、分形連氣の人なれば、友愛の惠をほどこすべき事勿論の義なり、この道理あきらかにして、おこなひがたき事ならねども、世上のまよへる人をみれば、多分兄弟のあひだ、他人よりもおろそかなり、わづかのよくのあらそひにて、かたきの思ひをむすぶもあり、分形連氣のことほりをしらす、わが身にて我身をそこなふありさま、愚痴の至極あさましき事なるべし、おなじくおやの身を分て生れたるものなれども、先後の序によつて、兄はたつとく、弟はいやしき次第ありて、惠悌の道序を本として、おこなふことほり、天のさだめ給ふ次第にて、をのづからある道なるゆへに、五教の第四に長幼有序と説給へり。

〔伊勢平藏家訓〕五倫の事

一弟は兄をゐやまひて兄をおしのけず、何事も兄のした手に付てさし出ず、兄にしたがふべし、兄のしかたはわろくとも、兄を敬やまひ大切にして、背く事なきを悌といふ、是弟の法なり、

〔令義解戸〕凡國守毎年一巡行屬郡、觀風俗、○中部内有好學篤道孝悌忠信、
仁義等道、
中略、然則孝悌

仁義既入篤道、而更下文舉孝悌忠信者、蓋一在
身之謂矣、凡此四者、人之高行、故舉爲稱首、
○中略、發聞鄉閭者、舉而進之、
○義、有不孝悌、悖禮、亂常、不

率法令者、○義、
解、糺而繩、

悌例

〔日本書紀〕十五三年、○清十二月、百官大會、皇太子億計、○仁取天皇之璽、置之天皇之坐、再拜從諸臣

之位、曰此天皇之位、有功者可以處之、著貴蒙迎、皆弟之謀也、以天下讓天皇、天皇顧讓以弟、莫敢卽位、

又奉白髮天皇、○清先欲傳兄、立皇太子、前後固辭、曰日月出矣、而燭火不息、其於光也、不亦難矣、時雨